



和牛甲子園 通信

高校牛児のみなさん、こんにちは。和牛甲子園事務局です。
 今回は、前回大会で総合評価部門最優秀賞を獲得した愛知県立渥美農業高校から、第6回大会にける意気込みと高校牛児の学校生活をレポートします。
 また2面では、和牛甲子園の枝肉勉強会の講師を第1回からお願いしている東京食肉市場営業本部牛肉営業部の早瀬次長から和牛甲子園のあゆみと成長、次回出場する高校牛児へのメッセージを語っていただきました。

第5回の覇者!! 渥美農業高校訪問記



渥美農業高校の動物科学部では肥育牛4頭・繁殖牛16頭の合計20頭を6名の部員で飼育しています。



稲垣 帆風さん(右)と奥田里紗さん
 名探偵コナンを愛する2年生の仲良し二人組にお話を聞きました。

- Q. 先輩の最優秀賞受賞で、刺激を受けたり、影響を受けましたか？
- A. 同じ仲間として、嬉しさは格別で、言葉では言い表せません。また、私たちが続きたい、絶対に最優秀賞を取りたいとの強い思いも芽生えました!!
- Q. 日々の飼育ではどのようなことを心がけていますか？
- A. 毎日交代で対応しており、体重計測の時にしっかりと牛の顔を見て、体調の良し悪しを判断しています。
- Q. 学校の先生以外の外部の専門家などに飼育のアドバイスなどはもらうことはありますか？
- A. 学校の獣医さんや近隣の肥育農家さんからもアドバイスをもらっています。実体験に基づいた情報は貴重で、大変勉強になります。
- Q. 前回大会で取組んだテーマは非常にユニークでしたが、どんな視点からテーマ設定を進めているのでしょうか？
- A. 前年に大きく「来年はこういったことを取り組もう」と決めて、その目標に向かっていく中で具体的なテーマを決めています。今回はGAP取得を目標に掲げていたのでその流れでテーマを決めました。
- Q. 牛の飼育以外で、学校生活ではどんな楽しみがありますか？
- A. 授業での野菜の収穫です。特に渥美半島の特産品でもあるメロンの収穫は楽しみにしています!!
- Q. 最後に次回の大会に向けての意気込みをお願いします！
- A. 稲垣さん: どの牛もその子が輝ける最高の舞台となるよう、発表資料をつくり、磨き上げます!
 奥田さん: プレッシャーもあるけれど負けないように頑張ります!

和牛甲子園の歩みと成長の歴史

枝肉勉強会講師 早瀬先生 和牛甲子園を大いに語る!!

Q. 早瀬次長は、和牛甲子園では第1回から枝肉勉強会の講師を務め、その笑顔とわかりやすい解説は和牛甲子園「名物」としてかかせませんが、普段はどのようなお仕事をされていますか？

A. 北海道から鹿児島まで全国の牧場に出向いて東京食肉市場への出荷を依頼する、集荷の仕事をしています。

Q. 高校牛児の努力の結晶というべき出品枝肉の品質について、率直な感想は？

A. 枝肉成績のレベルの高さは大人にヒケを取りません。単に脂肪交雑を入れる技術だけではなく、きめ細かく・光沢ある5等級でも上位にランクされる枝肉が多いです。「基礎はしっかり・応用もバッチリ」という将来の大型スラッガー、それが私の高校牛児のイメージです。

Q. 早瀬先生は取組評価部門の内容にも高い関心を寄せられ、体験発表会も欠かさず聴講されていますが、感想をお願いします。

A. 地域に根ざしたユニークな内容の発表が多く、参考にしています。また、職務上、販売を視点にいたった研究発表は、聴き入ってしまうこともしばしばです(笑)。

Q. 先生からみた和牛甲子園とはなんでしょうか？

A. ほかの出場高校と競うのではなく、先輩からのバトンを受け継ぎ、その成果をさらに高めて、次代につなぐ。和牛甲子園とは、「先輩から後輩へつなぐ、意志のバトンリレー」だと思います。

Q. 最後に高校牛児へのエールをお願いします！

A. 来年1月に皆さんとお会いできるよう、万全を期して、準備を進めています!!品川でお会いしましょう!!



東京食肉市場(株)
営業本部 牛肉営業部
集荷担当 早瀬次長

東京食肉市場株式会社

東京都開設の公設市場で肉牛・肉豚の荷受けから処理、せり・販売までをおこなっています。牛を約年間13万頭取扱い、都会のど真ん中品川に位置する高校野球でいえば、まさに聖地「甲子園」にあたります。



和牛甲子園webサイト開設!

webサイトから資料をダウンロードしたり、各種情報が閲覧できるようになりました。このwebサイトからも皆さんへ情報発信していきます。

<https://wagyukoushien.com/>

